20085

ヘムコンパッチを用いて止血し安静時間短縮に向けての取り組み-腰痛緩和を目指して-

【背景】当センターにおける急性冠症候群(ACS)冠動脈形成術(PCI)は、8Fr シースを用いた大腿動脈アプローチが主体である。現在の止血プロトコールではシース抜去後 6 時間以上の安静を必要とし、長時間臥床による腰痛などの患者の苦痛が大きな問題であった。ヘムコンパッチは良好な止血効果が得られる止血デバイスであり、今回ヘムコンパッチを使用しシース抜去後の安静時間の短縮を検討した。【方法】大腿動脈より 8Fr シースを挿入し PCI 施行した ACS 患者を対象とした。従来のプロトコールにてヘムコンパッチを使用せずに用手圧迫止血した 20 症例(非使用群)と、ヘムコンパッチを使用して止血し 5 時間で安静解除した 20 症例(5 時間群)、さらに安静時間を短縮し 4 時間で安静解除した 20 症例(4 時間群)の止血後創部の状態や合併症、安静による腰痛(Verbal Rating Scale を用いて評価)のデータを収集し比較検討した。【結果】3 群ともに輸血を要したり仮性瘤等の合併症は認めなかったが非使用群では安静時間平均 12 時間、腰痛に対し鎮痛剤使用 9 例でありスケールスコア 2.9 点、5 時間群では腰痛にて鎮痛剤使用 6 例スケールスコア 1.6 点、軽度の血腫を 3 例認めたが、再圧迫せず拡大や増悪認めなかった。4 時間群では腰痛にて鎮痛剤使用 3 例スケールスコア 1.2 点、血腫 1 例あったがシース抜去前より認めており拡大や増悪も認めなかった。【結論】ヘムコンパッチを使用することにより大きな出血性合併症を認めることなく安全に安静時間を 4 時間まで短縮できる可能性があり、腰痛などの苦痛を緩和できる可能性が示唆された。